

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 3 月 30日

事業所名 ポシブル

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個人用ベッドが設置	毛布等を増量
	2	職員の配置数は適切である	○			全職員、どの児童も担当という意識を持つようにしている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		施設内バリアフリー	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			児童の各活動についての振り返りを必ず行い記録に残す
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者からの声を大切にし、常時全職員の共有とすることを心掛けている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページで公開
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			月1~2回の研修を行い、担当で詳細に記録し、回覧を行うことにしている
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			アセスメントツールの使用を増やす。各々に応じた成功体験を持たせるようにし達成感、満足感を味わうように支援していく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		地域性(山間部、海浜等)を活かした自然体験、季節に応じた農耕体験(園芸・果樹取り入れ等)を多く取り入れている	長期休業中、終日休校日は利用数・児童の実態を踏まえ、季節や行事等を考慮したプログラムを立案していく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		情報共有を全職員の心がけとしている	客観的視点にたったの記録をしていく。数値目標をあげその記録も正確にしておく。個々の変容は成長面を強調していく。児童の成長や取り巻く環境の変化に応じ支援内容や方法を改善するように務める
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			個々のモニタリングを定期的に行い、その都度、改善・見直しをする。議事録としてその内容を保管している。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			先ず、ガイドライン総則の基本活動を習得する	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		必ず児童発達管理責任者が出席するようにしており、場合によっては複数の職員が参画する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		各学校の事情により、直接連絡を行う・ホームページを見る・ファックスを送ってもらう等、特に気を配っている。また、学校の行事年間計画については、コロナ禍の関係で何度も変更があったが連絡調整を密にとった。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		看護師との連絡を密にとるようにしている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		小中学校卒業生はまだいない。他施設・他事業所への場合は十分に情報提供を行う
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		個々のケア会議等で専門機関との連携を密に行い、助言を受けている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	同施設内の保育園児と交流の場を多く持っている	学童保育の児童との交流の機会も多い
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	週に2回活動状況を写真で知らせる。	子どもの状況や課題については、詳細な記述を心掛けるが、できるだけ口頭でも伝える
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に詳細に説明している。	月々の利用請求等、口頭で説明し必ず手渡しする
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談等には、丁寧な回答を心掛けている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		子どもや保護者からの声を真摯に受け止め、適切な対応ができるよう全職員が心掛ける
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	日々の活動状況を画像でお知らせしている。	活動・行事予定等は連絡帳を活用し、送迎時にも口頭でもお知らせする。献立表も必要に応じ配布する。
	35	個人情報に十分注意している	○		全職員の守秘義務としている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		特別な配慮の必要な情報伝達には特に気を付けており、時間をかけて説明する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	収穫した橙を手渡したり、一緒にジグソーパズルも行い喜ばれた	近隣の福祉施設を訪問したり、その行事にも積極的に参加するようにしている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			「感染症予防チェック表」は毎日、全職員が記入する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月避難訓練を行っている。防災カルタを活用すると理解のも行動も早い	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			身体拘束はありえない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			保護者からの連絡が必ずある。常時確認し、管理栄養士とも密接な連携を行い、掲示を工夫する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		法令研修も行った。具体例をあげ常にヒヤリハットを意識している	